

CASBEE京都-新築(2011年版)
(仮称)MM 五条堀川 新築工事

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル										
2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
3 外皮性能										
4 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率 ●自然 A(全国版準用)										
2 方位別開口 ●自然 B(推奨内容)										
3 昼光利用設備 ●自然 B(推奨内容)										
3.2 グレア対策										
2 昼光制御 ●自然 B(推奨内容)										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量 ●自然 A(全国版準用)										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性 ●大切 D(独自基準)										
2 高度情報通信設備対応 ●とも C(独自加点)										
3 バリアフリー計画 ●とも D(独自基準)										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 ●とも C(独自加点)										
2 リフレッシュスペース ●とも D(独自基準)										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数 ●大切 A(全国版準用) RC造(耐用年数65年)										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性				電気、ガスエネルギー使用、換気は吊配管	2.6	0.19			
1	空調・換気設備				5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3	電気設備				1.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.0	0.29	2.3	1.00	2.4
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり						1.6	0.50	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)				2.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり							1.0	0.40	
3.3 設備の更新性							3.0	0.50	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	1.00			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
5	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
6	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22			
6	バックアップスペース	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観課にて許可済(京都市指令都景景第2003000000)	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					1.0	0.30			1.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		1.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	2.5
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	2.2
1 建物の熱負荷抑制					1.0	0.40			1.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電パネル設置	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					3.1	0.40			3.1
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					#VALUE!				
集合住宅の評価					3.1				
4 効率的運用									
4.1	モニタリング								
4.2	運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護					3.0	0.15			3.0
1.1 節水					3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	1.00			
2	雑排水等利用システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63			2.9
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00			
3	冷媒				-	-			
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮					3.2	0.33			3.2
2 地域環境への配慮					1.8	0.33			1.8
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減				-	-			
2	汚水処理負荷抑制				-	-			
3	交通負荷抑制				3.0	0.50			
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.50			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動				-	-			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制								
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる